

第17号(2008-1) 2008年6月20日

大学評価学会通信

目次

◆ 第5回全国大会が開催されました	1
◆ 第5回全国大会に参加して	2
◆ 年報編集委員会からのお知らせ	3
◆ 会費納入のお願い	3
◆ 第5回年次総会報告	5
◆ 第Ⅲ期の体制について	10

第5回全国大会が開催されました

3月15日、16日の二日間にわたって、大学評価学会第5回全国大会が大阪大学で開催されました。「大学教育の『質』をどう扱うか—評価と多様性—」をテーマに開催された今大会には、二日間で約110人の参加がありました(延べ人数で、150人近い参加)。

初日(15日)の午前中は、2会場でそれぞれ二つの会員報告が行われました。午後、年次総会に続いて開催されたシンポジウムでは、大会テーマの下に、ピーター・M・ハーテロー(オランダ・エラスムス実践哲学研究所)、山内正平(千葉大学)、宮原明(富士ゼロックス相談役・元社長、国際大学副理事長、関西学院大学理事)の3氏がそれぞれ、“Innovating quality management of university education”(大学教育の質管理を革新する)、「学士課程教育における学習プログラムの改善と質保証」、「価値創造のための仕事のデザインと評価」のテーマで報告されました。司会・コーディネーターは、望月太郎氏(大阪大学)が努めました。

大会二日目(16日)は、午前中に、「大学職員の働きがいと評価問題」と「国立大学法人化から4年」の二つのテーマで分科会が開催されました。午後には、「認証評価機関を『評価』する」と「大学におけるハラスメント対策の現況と教育の『質』確保」の二つのテーマで分科会が開催されました。各分科会での報告と質疑を踏まえ、総括討論が行われました。

大会の様子について、お二人の会員に感想を寄せていただいていますので、ご一読ください(2~3頁)。

◆◆ 研究会のご案内 ◆◆

次のとおり、第24回研究会を開催いたしますので、ご参加ください。なお、今回の研究会は、龍谷大学国際社会文化研究所共同研究プロジェクトとの共催です。

- ・日時：2008年6月28日(土) 15:00~17:00
- ・場所：龍谷大学深草学舎 紫英館6階会議室
- ※ 龍谷大学までの経路は、<http://www.ryukoku.ac.jp/web/map/fukakusa.html> をご覧ください。
- ・テーマ：岡山茂氏(早稲田大学)「サルコジ大統領の下でのフランスの大学改革」

次回以降の研究会の予定は、次のとおりです。

- ◆ 第25回研究会「あらためて、大学職員の専門性を問う」
 - ・日時：2008年8月30日(土) 13:30~(於：キャンパスプラザ京都)
- ◆ 第26回研究会
 - ・日時：2008年11月15日(土) 13:30~(於：東京国際大学早稲田サテライト)
 - ※ 詳細は、後日、ご案内します。

第5回全国大会に参加して

川口 洋誉（名古屋大学大学院）

大学評価学会全国大会も今回の大阪大学での大会で5回目を迎えました。大会の回を重ねる度に量・質ともに充実する本学会の活動は、非会員の先生方の協力とともに、本学会員の日々の絶え間ない研究活動の賜物であると確信しております。さて、学会事務局のご配慮で第5回大会に参加しての感想を述べる機会を得ましたので、同大会の感想とともに今後の課題を記させていただきます。

本大会においても、単なる評価の方法論・技術論に陥ることなく、大学評価論を展開する基盤として大学論もしくは大学教育論のさらなる充実が図られたことは、本学会にとって有益なものでありました。シンポジウムでは、「大学教育の『質』をどう扱うか」をテーマに、ピーター・M・ハーテロー氏、山内正平会員、宮原明氏の三氏によってそれぞれの立場から大学教育の質をめぐって三者三様の大学論が示されました。特に、ハーテロー氏が大学教育の目的を「学生を人間存在として発達させること」と捉えたことは印象的でした。そして、同氏は、大学教育のアウトカムとは決して「学位を取得する学生の数」ではなく、「学生の批判的態度の発達」であり、「学生の発達を助ける雰囲気あるいは環境」こそが大学教育の質として正しく評価されなくてはならないと続けます。大学教育とは定量的な結果を求めるのではなく、批判的態度や教養という数値化できない価値を実現するものであることを再確認することができました。

しかし、残念ながらハーテロー氏は、教育・学習のプロセスの重要性を指摘するものの、学生の批判的態度や教養を育む雰囲気や環境をどのように評価するのかという部分には言及されなかったように思われます。それは宮原氏が自身の出身企業での個人評価の詳細な方法を示されたのとは対照的であり、宮原報告は企業社会ではすでに詳細かつ組織的な評価方法が機能している事実を我々大学人に対して突き付けるものでした。つまり、私も含め本学会として、大学論・大学教育論を充実させるなかで確認された大学の価値、大学人が必要と考える価値をどのように評価するのかという課題を得ることができたのではないのでしょうか。

大学論に根付いた大学評価の方法論・技術論の展開こそが本学会に期待されるところではないかと思えます。大学論なき大学評価の方法論は、先行する企業社会の評価方法を受け入れるスキを与えることになるであろうし、方法論なき大学評価論は机上の空論になりかねません。本学会が得た大学論・大学教育論の蓄積を大学評価の方法論・技術論に創造的に連結させることで、国家統制の手段ではない、大学の価値を的確に社会に伝える大学人の「武器」となる大学評価を本学会から発信することができるのではないのでしょうか。こうした課題は名古屋大学での第6回大会に引き継がれることを期待するとともに、私自身も自らの研究課題として取り組んでいきたいと考えております。

最後になりましたが、大会開催にご尽力いただいた大会実行委員会の望月先生、中村先生、ならびに学会事務局の先生方に厚く御礼申し上げたいと思います。

米津直希（名古屋大学大学院）

今回、初めて全国大会に参加し、これまで私が経験した他の学会や研究会との違いを感じることができました。

特に感じたのは、良い意味で「揺らいでいる」ということでした。発表される方々の分野の幅が広く、その分内容に追いついていくのは大変でしたが、議論が実に刺激的でした。自由に議論できる環境の中で、新たな価値を生み出そうとしている雰囲気を感じました。

特に興味深かったのはシンポジウムで、発表された先生方のご専門、ご経歴が多彩で、果たしてこれがまとまるのだろうかと考えていましたが、実は全ての先生方のお話しが終わった後も、自分の中で先生方のお話をまとめることが困難でした。しかしその後の討論を通して、徐々に形が整えられていき、論点が提示されていく様は大変興味深いものでした。

数年前の研究会で、「企業的手法と一括りにされるが、企業的手法は企業の数だけ存在する」という指摘がされたことを覚えています。今回のシンポジウムでも、最後に提示された論点の中に「教育学の分野

において、企業的経営手法として一括りにしている考え方というものは、見直すべきなのかもしれない」というものがあつたと思います。それらの指摘はそれまで私がいかに言葉を単純に捉えていたかを思い知らされるものでした。同時に様々な学問領域から様々な意見・論点が出され、定説が見直され、新たな価値観を創造していく学会としての在り方の、一端を見たようでした。またこのシンポジウムでの、実践・実態面と哲学面の両面からのお話しは、この部分にやはり今後検討していくべき部分があるのではないかと思います。今後の研究意欲を大いに沸かたせられるものでした。

現在多くの場面で用いられている「大学評価」概念は、第三者からの、恣意的・意図的な価値基準を含んでいるように見えます。また多くの社会的な場面で評価が行われており、大学においても評価されるという事態はなかなか避けがたいことですし、もちろん有効な評価は重要であると思います。そうした状況の中で、評価の実践と理論・哲学をすり合わせ、新たな「大学評価」概念を打ち立てていく事が必要であり、そのためにこの学会が果たすべき役割は大きいと感じました。大学院生としてこの学会に参加できることは大きな経験です。

望むべくはもっと若手が増えて、青臭い議論ができたなら、勧誘活動に精を出すことが必要かなと、若干の寂しさを感じながらも、今後の学会の発展に、少しでもとは言わず、大いに貢献できたらと思います。

年報編集委員会からのお知らせ

このたび、大学評価学会年報『現代社会と大学評価』第4号を刊行いたしました。一般会員の方には、本「通信」とあわせて、お送りしています（2007年9月の理事会で入会承認された方までが対象です）。定価（税別）2,000円のところ、会員価格は1,800円となっています。ご希望の方は、事務局までお知らせください（次頁に、目次を掲載しています）。本来であれば、大会開催月に刊行すべきところ、刊行が遅れ、6月に入ってから、会員のみなさまにお届けすることとなりましたことをお詫びいたします。

さて、年報、第4号から表紙のデザインを一新いたしました。これは、年報の「編集後記」にもありますように、編集委員会としての「決意」を込めてのものであります。引き続き会員のみなさまのご協力をお願いいたします。その最も具体的かつ重要なものが、学会誌への投稿であります。以下のとおり、編集委員会では、年報、第5号の原稿を募集しております。

年報編集委員会では、年報『現代社会と大学評価』第5号を2009年3月に刊行すべく、会員のみなさんに投稿を呼びかけています。投稿については、次のように定められています（「投稿規程」）。

投稿希望者は、年報発行前年の7月末日までに、氏名、所属、職名（大学院生の場合は課程、学年など）、住所、電話、Fax、e-mail アドレス、論文・書評などの別、予定のタイトル・枚数を書き、編集委員会まで申し込むこと（宛先は次の執筆要領 10. 原稿送付先・問い合わせ先参照のこと）。

原稿提出期日は9月末日となっています。投稿規程および執筆要領は、学会のホームページでご覧いただけます。また、学会年報にも掲載してあります。会員のみなさまの投稿をお待ちしています。なお、編集委員会事務局は、次のとおりです。

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学 細川研究室気付

Tel : 075 (645) 8634 (ダイヤル・イン) E-mail : hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp

会費納入のお願い

2008年度の会費請求書を同封しておりますので、納入いただきますようお願いいたします。なお、過年度分をまだお支払いいただいていない方には、別途、ご連絡いたします。

本年度から事務局の財政担当者を変更になりました。事務局次長の細川（電話：075-645-8634（ダイレクトイン）、e-mail : hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp）です。よろしくお願いいたします。

大学評価学会年報『現代社会と大学評価』第4号

「認証評価」と大学評価の多様性

特集Ⅰ「認証評価」の現状と課題 ―大学評価の多様性を目指して―

昨今の高等教育改革の動向と認証評価の行方	早田幸政	1
FDの制度化と大学評価の関係	有本 章	16
評価漬けがもたらしているもの	池内 了	54

特集Ⅱ 人事評価、教員評価、教育評価をめぐって

岡山大学における教員評価	佐藤豊信	64
競争の導入と教育評価	井上秀次郎	76
―第4世代の評価にかかわって―		
大学における目標管理制度の導入と評価システム構築の諸課題	三島倫八	91
―企業経営の事例を踏まえて―		

論文

大学英語教育における「プログラム評価」導入と実施の提言	山中 司	106
―英語教育のアカウントビリティとしての評価実践の確立に向けて―		

大学時評

外国人留学生の現状と「大学の国際化」の評価	岡崎昭彦	131
―現場から見た留学生のケアをふまえて―		
日本の高等教育国際比較	角岡賢一	143
大学評価をめぐる対極的ベクトルの調停	佐藤 仁	152
―米国のアクレディテーションを手がかりに―		

インタビュー

大学評価と学生参加		161
―全日本医学生自治会連合委員長の松本翔子さんに聞く―		
フランス大学評価国家委員会(CNE)の活動		205
―事務官ピエール・クロール Pierre Couraud 氏に聞く―		

書評

深山正光『国際教育の研究―平和と人権・民主主義のために』 新協出版社(桐書房発売)、2007年	細川 孝	246
--	------	-----

資料

大学評価京都宣言 = もう一つの「大学評価」宣言		257
大学評価学会設立趣意書		259

大学評価学会規約		262
----------	--	-----

『現代社会と大学評価』投稿規程・執筆要領		266
----------------------	--	-----

第5回年次総会報告

<審議事項>

1) 議長選出(理事と会員からそれぞれ1名)

村上理事、永井会員の2名を承認。

2) 2007年度活動総括(案)について

<研究会活動の経過>

① 第22回例会(4月22日、龍谷大学深草学舎・紫英館6階会議室)

内容: 共通テーマ「評価文化と認証評価をめぐって」

- ・「川口昭彦『大学評価文化の展開』を読む」細川孝氏(龍谷大学)
- ・「早田幸政・船戸高樹編『よくわかる大学の認証評価』を読む」中道眞氏(龍谷大学)

② 第23回例会(7月21日、龍谷大学瀬田学舎・1号館619会議室)

テーマ: 「大学職員の可能性と職員評価」

- ・「大学の事務組織はどのように変わるのか?—学部事務室と職員人事制度を中心として—」鈴木裕樹氏(龍谷大学)
 - ・「大学職員の働き方と 職員評価」土山晶子氏(京都経済短期大学)
 - ・「国立大学法人職員人事システムに係る新たな展開」林透氏(北陸先端科学技術大学院大学/名古屋大学大学院博士後期課程 教育発達科学研究科 教育科学専攻 在学中)
- コメンテーター; 津田道明氏(日本福祉大学)、司会; 村上孝弘氏(学会理事、龍谷大学)

③ 第4回秋の研究集会(9月1日、岡山大学)

会員報告

- ・「行政評価とNPM(ニュー・パブリック・マネジメント)の方法論の検討」三宅正伸氏(大阪商業大学大学院)
- ・「外国人留学生の現状と『大学の国際化』の評価—現場から見た留学生へのケアをふまえて—」岡崎昭彦氏(京都工芸繊維大学)
- ・「私立大学再編の動向とその課題」岩崎保道氏(同志社大学大学院)

シンポジウム

テーマ; 「人事評価、教員評価、教育評価をめぐって」

- ・「岡山大学の教員活動評価に向けた取組の現状」佐藤豊信氏(岡山大学)
- ・「競争の導入と教育評価—第4世代の評価ともかかわって—」井上秀次郎氏(愛知東邦大学)
- ・「大学における目標管理制度導入と評価システム構築の諸課題—企業経営の事例をふまえて—」三島倫八氏(龍谷大学)

コメンテーター; 「米国におけるアクレディテーションからの視点」佐藤仁氏(九州大学)

司会; 植田健男氏(名古屋大学)

④ 第5回全国大会(3月15~16日、大阪大学)

- ・なお、シンポジウムは、龍谷大学国際社会文化研究所共同研究(細川グループ)との共同開催。

<通信の発行および出版活動>

- ・『通信』は4回発行。
- ・年報第4号の刊行は2008年4月の予定(年報編集委員会)

<その他、活動および会合>

- ・第Ⅱ期第5回理事会(岡山大学、9月2日)
- ・外務省への意見書提出(2006年問題特別委員会)
- ・常任理事・事務局合同会議(11月17日と2月9日に2回開催)

- ・大会実行委員会を2回開催（同上日の開催）。
- ・日本学術会議・協力学術研究団体の指定を受ける（2007年11月22日）。
- ・第Ⅱ期第6回理事会（大阪大学、3月15日）
- ・会員有志による2件の共同研究活動（学会活動の一環として）

龍谷大学国際社会文化研究所（指定研究）の開始、2007年4月から3年間。テーマ；「世界中の日本、日本の中の世界—大学評価システムの国際比較と『評価文化』に関する総合研究—」、共同研究者10名、研究協力者4名、研究代表者・細川孝（龍谷大学）。

科研費共同研究・基盤研究（c）（時限付き項目「大学改革・評価」）の開始、2007年から3年間。テーマ；「大学内ステークホルダー間調整視点からの評価—機能モデルの研究—」、共同研究者9名、研究協力者8名、研究代表者・重本直利（龍谷大学）。

- ・2008年3月15日現在の会員数248人（正会員241人、協力会員7人＜団体会員3を含む＞）
- ⇒以上、すべて承認

3) 2007年度決算（案）および監査報告（別紙参照）

⇒承認

4) 大学評価学会規約改正提案

学会規約第25条に基づく規約改正等の提案を以下行います。

＜規約改正提案内容＞

第3条 本会は、第2条の目的を達するために、次の活動を行う。

- 1 年1回の大会（春季）および研究集会（秋季）を開催し、研究の発表および討論を行う。
↓（下線部分を削除する）

- 1 年1回の大会（春季）を開催し、研究の発表および討論を行う。

＜改正等理由＞

これまで第1回～第4回秋の研究集会として9月上旬に開催してきましたが、時期的に開催が難しいこと、また7月下旬開催の研究集会の後すぐということで理事・幹事および事務局負担が大きいということを主な理由として、今後は秋の研究集会を行わず、第3条2にある研究会の開催をもって、この研究集会の実質を確保することとしたい。

⇒承認

5) 2008年度活動方針(案)について

＜研究会および委員会活動＞

- ・「高等教育改革理念等の世界的動向」など。
- ・「大学トップマネジメントの評価」、「職員評価」など。
- ・「認証評価機関の動向」、「教員評価」など。
- ・海外調査；韓国、フランス、ドイツなど。
- ・2006年問題特別委員会の名称変更。国際人権A規約第13条問題特別委員会（略称；13条特別委員会）とする。「国際人権A規約第13条2項(c)の留保撤回」に関する他団体とのシンポジウム、研究会等での協力・共同関係の推進、外務省・文部科学省への働きかけおよび意見書提出など。
- ・シリーズ本3巻以降の刊行（以下「出版活動」参照）。
- ・専門委員会は「プロジェクト委員会」として以下の出版活動としてシリーズ本各巻編集委員会に改編する。
- ・その他。

＜研究会等の開催＞

- ・研究例会の開催（年2～3回程度）。以下研究例会の開催日程。

第24回研究会

6月28日（土）岡山茂氏他に報告依頼予定（於：龍谷大学）

第25回研究会

8月30日（土）職員問題の研究会（旧秋の研究集会）

※ 会場は京都駅前のキャンパスプラザ京都。

第26回研究会

10月あるいは11月に東京で開催

＜出版活動＞

- ・シリーズ本各巻毎の編集委員会（第3巻以降）による刊行案（以下、すべて仮称。太字は近刊を目指す。発売は晃洋書房。定価は1000円～1500円（税別）の間で設定。ページ数は100～150ページ程度）。

「国際人権A規約と大学評価」特別委員会を中心とした編集委員会（編集責任者； ） ※ 国際社会文化研究所の共同研究の成果の一部。

「大学評価基本用語 100」編集委員会（編集責任者； ） ※ 科研費の共同研究の成果の一部。

「職員評価問題」編集委員会（編集責任者； ）

「大学倫理、大学憲章」編集委員会（編集責任者； ）

「認証評価および認証評価機関研究」編集委員会（編集責任者； ）

アメリカ、イギリス、フランス、タイ、韓国、中国などで各編集委員会を設置する。

「学生参画の大学評価」編集委員会（編集責任者； ）

その他、テーマ毎に各巻編集委員会を設置する。

⇒以上、すべて承認（なお、編集責任者は今後検討する）

6) 2008年度予算(案)について(別紙参照)

⇒承認

7) 第Ⅲ期理事(任期2008年3月～2010年2月)について

選出管理委員；竹内眞澄会員（桃山学院大学）、三島倫八会員（龍谷大学）

- ・第Ⅲ期理事候補者推薦名簿（第Ⅱ期理事会推薦）が提案された。

池内了（総合研究大学院大学、宇宙物理学）、井上秀次郎（愛知東邦大学、経営学）、植田健男（名古屋大学、教育経営学）、碓井敏正（京都橘大学、哲学）、岡山茂（早稲田大学、フランス文学）、海部宣男（国立天文台名誉教授、天文学）、紀葉子（東洋大学、社会学）、熊谷滋子（静岡大学、社会言語学）、蔵原清人（工学院大学、高等教育論）、塩野博雄（立教大学職員）、重本直利（龍谷大学、社会経営学）、津田道明（日本福祉大学職員）、中村征樹（大阪大学、科学技術史）、永岑三千輝（横浜市立大学、ドイツ史）、橋本勝（岡山大学、大学教育論・経済統計学）、細井克彦（大阪市立大学、教育学）、水谷勇（神戸学院大学、教育学）、三輪定宣（帝京平成大学、教育学）、村上孝弘（龍谷大学職員、大学アドミニストレーション論）、望月太郎（大阪大学、哲学）

⇒内規6および規約第21条の総会議決で推薦候補者全員が承認された。

8) 会計監査人選出のついて

- ・第Ⅲ期会計監査人候補者名（第Ⅱ期理事会推薦）；斎藤敏康氏（立命館大学）、塚田亮太氏（専門的非常勤講師）⇒承認

9) 「田中昌人記念学会賞」(仮称) の設置について

- ・対象者；原則として若手の研究者会員とする。年齢制限は特に定めない。
- ・対象業績；本学会誌および本学会シリーズ本での発表原稿。ただし、その他の学会外の出版物も可とするが、その場合は会員2名以上の推薦者による推薦とする。なお、自己応募はなし。
- ・記念学会賞選考委員会を設置する。選考委員は理事会において選出する。任期期間は2年とし理事任期と同様とする。選考委員の互選で委員長、副委員長を選出する。
- ・選考は2年毎に行われ、結果は総会時に報告される。
- ・受賞者には記念品等を贈呈する。贈呈は総会の場において行う。
- ・選考委員会の運営細則は理事会において定める。

⇒承認

10) 第6回全国大会について

- ・開催日時：2009年3月14日(土)～15日(日)
- ・開催場所：名古屋大学
- ・大会テーマおよび報告者は2008年9月頃までに決定する。

⇒承認

11) その他

- ・第7回全国大会の開催場所について(2010年3月)東京での開催を検討する。
- ・理事会における常任理事の設置について

⇒承認

2007年度決算(2007年3月1日～2008年2月29日)

1. 収支決算表(2007年3月1日～2008年2月29日)

	予算	決算	
前期繰越金	851,415	851,415	
会費収入	1,520,000	1,582,000	2007年度(922,000) 144名 過年度分(660,000)
年報・シリーズ本販売売上	446,000	368,200	
雑収入	0	42,711	大会補助戻入(12,711)、高等教育研究会(30,000)
＜収入合計＞	2,817,415	2,844,326	
理事会費	250,000	10,300	理事会昼食代
年報・シリーズ本編集費	1,170,000	987,100	年報第3号編集経費・印刷費、 シリーズ本第2巻印刷費
会報・リーフレット作成費	50,000	0	
通信費	200,000	180,324	メール便、郵送費
大会・研究集会	500,000	322,407	大会補助・報告者謝礼ほか
事務用品費	40,000	28,122	封筒代、宛名シールほか
支払手数料	30,000	19,790	送金手数料ほか
予備費	577,415	9,195	レンタルサーバー代・印字代
＜支出合計＞	2,817,415	1,557,238	
＜次期繰越金＞	0	1,287,088	

- 注) 1. 会費収入内訳は、次のとおり。2007 年度会費（納入者 144 名）： $7,000 \times 124 = 868,000$ 円、 $3,000$ 円 $\times 17 = 51,000$ 円、 $1,000 \times = 3,000$ 円、計 922,000 円。過年度分（2004 年度、2005 年度、2006 年度分含）：
660,000 円。2007 年度の当年度会費納入率は 52 %（144/277）。2007 年度の会員数（2007 年 9 月理事会
の時点）は、会員 269 人、協力会員 8 人（うち団体会員 3）、計 277 人（団体 3 を含む）である。
2. 年報・シリーズ本販売売上は、年報第 1 号、第 2 号、第 3 号、シリーズ本第 1 巻、第 2 巻の売上による。

2. 貸借対照表（2008 年 2 月 29 日現在）

資産		負債	
現金	630,717	次期繰越金	1,287,088
郵便振替口座	656,371		
合計	1,287,088	合計	1,287,088

※ 監査報告書は、紙面の都合で、次号の「通信」に掲載します。

2008 年度予算（2008 年 3 月 1 日～2009 年 2 月 28 日）

	2008 年度予算	2007 年度決算	2007 年度予算
前期繰越金	1,287,088	851,415	851,415
会費収入	1,520,000	1,582,000	1,520,000
年報・シリーズ本販売売上	461,000	368,200	446,000
雑収入	0	42,711	0
<収入合計>	3,268,088	2,844,326	2,817,415
理事会費	200,000	10,300	250,000
年報・シリーズ本編集費	1,400,000	987,100	1,170,000
会報・リーフレット作成費	50,000	0	50,000
通信費	200,000	180,324	200,000
大会・研究集会	500,000	322,407	500,000
事務用品費	40,000	28,122	40,000
支払手数料	30,000	19,790	30,000
予備費	848,088	9,195	577,415
<支出合計>	3,268,088	1,557,238	2,817,415
<次期繰越金>	0	1,287,088	0

注)

- 会費収入は、会員数を 240 名（現職教職員 215 名、現職教職員以外 20 名、協力会員 5 名）とし、納入率約 80% で、予算計上した（ $7,000 \times 170 + 3,000 \times 15 + 1,000 \times 5 = 1,240,000$ 円）。過年度分については、40 名分（ $7,000 \times 40 = 280,000$ 円）を計上した。
- 年報・シリーズ本販売売上げは、年報（ $2,000 \times 0.4 \times 300 = 240,000$ 円）とシリーズ本（ $1,300 \times 0.4 \times 300 + 1,300 \times 50 = 221,000$ 円）を計上した。
- 年報・シリーズ本編集費は、年報第 4 号印刷費（400,000 円）、同第 5 号編集経費（200,000 円）、シリーズ本第 3 巻の印刷費（300,000 円）、同第 4 巻の印刷費（300,000 円）、シリーズ本の編集経費（200,000 円）を計上した。

第Ⅲ期（2008年3月～2010年3月）の体制について

3月16日（日）に開催された第Ⅲ期第1回理事会において、以下の通り、理事会・幹事・事務局の体制が決まりました。

<理事会体制>

- ・代表理事：池内了
- ・副代表理事：碓井敏正、細井克彦（事務局担当）
- ・常任理事（事務局担当理事）：中村征樹、望月太郎
- ・事務局長：重本直利

<幹事の選出>

- ・井上千一、川口洋誉、小長谷大介、坂本雅則、佐藤仁、永井康代、林尚毅、藤原隆信

<事務局の委嘱>

- ・共同事務局体制（大阪大学と龍谷大学の2校）
- ・事務局次長（2～3名）；岩波文孝、細川孝
- ・事務局員；小山由美、鈴木裕樹

なお、年報編集委員会については、継続審議となっています。

【大学評価学会の日誌】

- 2月9日（土） 全国大会実行委員会（大阪大学）
- 2月 第Ⅲ期理事選挙に関する「会員からの立候補者ないしは会員3名の推薦による立候補者」の受付（～3月1日）
- 3月12日（水） 会計監査（龍谷大学）
- 3月15日（土）～16日（日） 第5回全国大会（大阪大学）
- 3月15日（土） 年次総会（大阪大学）
- 5月8日（木） 事務局（会計、組織）引き継ぎ（龍谷大学）
- 5月31日（土） 第1回事務局会議（龍谷大学）
- 6月19日（木） 第2回事務局会議（龍谷大学）

<今後の予定>

- 6月28日（土） 第24回研究会（龍谷大学 * 1頁をご覧ください）
- 8月30日（土） 第25回研究会（キャンパスプラザ京都）

※ 第25回研究会については、次回の通信で詳細をご案内します。昨年まで開催していた「秋の研究集会」を、職員問題をテーマにした研究会として開催します。

〔編集後記〕

第Ⅲ期の体制が発足したことにとともに、「学会通信」は次号以降、永井幹事が担当することとなりました。これまでの読みづらい、誤字が多い紙面から一新されることは間違いありません。また、今後は、集団的な編集体制がつくられ、大学評価の動向に関する分析も行われる予定です。この点もご期待ください。今後とも「学会通信」をよろしくお願いいたします。（細川）

編集・発行：大学評価学会事務局	〒612-8577	京都市伏見区深草塚本町 67 龍谷大学 重本研究室 気付 Tel：075(645)8630 (重本)・8634(細川) e-mail: sigemoto@biz.ryukoku.ac.jp URL：http://www.unive.jp/
-----------------	-----------	---